

確実にふえている下剤依存症

私のクリニックには、重度の下剤依存症の人がめずらしくありません。そして、大半が若い女性です。なぜ、このように下剤の服用量がふえてしまったのでしょうか。

具体的なケースを挙げてみましょう。

OLのB子さん（23歳）は、中学生時代から体操をやっており、体重のコントロールについても苦勞していました。そのために食事量も少なめで、そのころから便秘がちでした。高校時代には自力ではなかなか出ない便を、週末にアントラキノン系下剤で出す習慣が始まりました。

そこまでは、まだよかったです。B子さんの下剤依存を加速させてしまったのは、友人から聞いた「下剤でやせるんだって」という一言でした。「食べたものが脂肪となつてつかないうちに、すぐに下剤で外に出す。いくら食べても体重を保てる」というのです。

この話は、これまで長く食べたいものを我慢してきたB子さんにはとても魅力的でした。そこから下剤の量が一気にふえました。そのころ、B子さんは大学に進学し、体操をやめていました。運動量のへったB子さんの体は太りやすくなる一方でしたから、「食べてやせる

下剤」は手放せなくなりました。

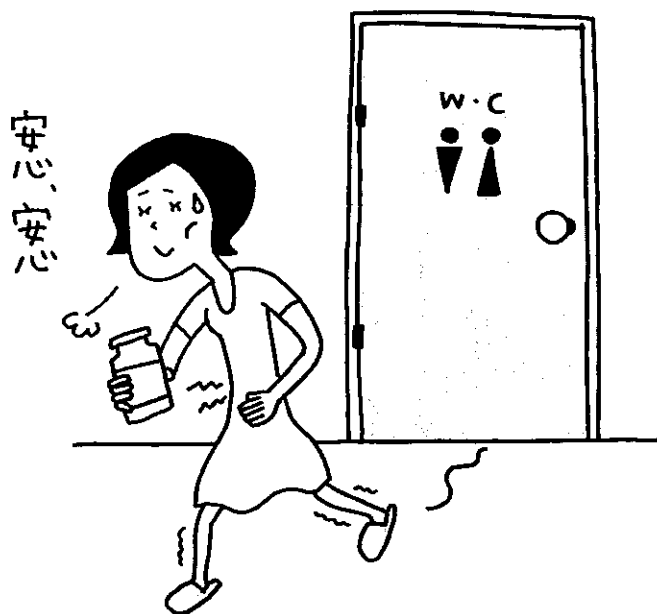
初めは常用量だったのですが、好きなものを好きなだけ食べる「過食傾向」がエスカレートするにつれ、前日の夜にある程度多量に下剤を服用しないと、翌日、排便がなく、「体重が増加してしまうのではないか」という不安にかられて、つい多く下剤を服用してしまうようになりました。

実際には、下剤で体重がへるなどということはありません。食べたものの栄養は大半が小腸で吸収されてしまいます。一方で大腸では水分のほか、電解質でんかいしつ（血液中の塩類）を調整する働きがあり、下剤の乱用でこの働きがさまたげられると、カリウム欠乏や心臓の機能異常など、命にかかわるトラブルも起こります。全身のむくみや顔のむくみも起こり、見た目にも不健康な状態になっていくのです。

なお、B子さんのように「便が出ないと体重が増加してしまう」という理由で重度の下剤依存症になる人は、どちらかというときやせ型の人が多く、食事の摂取量のコントロールが自分でうまくつけられない「摂食障害」を伴っていることが多いようです。「便を出さないとおなか張る」「排便量が増加しない」「便が出ないと下腹部がポッコリしてしまう」などの場合も同様です。

B子さんの例は極端に思えるかもしれませんが、体重をふやしたくないという理由で下剤

「下剤で体重がへる」は大きな間違い！



059

「体重をふやしたくない」という理由で下剤を乱用する女性が多いが、栄養分は小腸で吸収されているため、下剤を使ってもダイエットはできない。